

令和7年度の具体的な学校経営目標・計画（最終達成状況）

＜評価基準＞		A：全て達成	B：全てのうち半数程度達成	C：Bに達しない	岡山県立瀬戸高等学校		
学校経営目標	担当	具体的計画	現状及び今年度の達成基準	中間達成状況	評価	最終達成状況	
① 授業改革をより一層進め、ICT機器を効果的に活用することなどにより、主体的・対話的で深い学びを實踐することが自分事となる学びを實現する。 (尚学)	教務課	<ul style="list-style-type: none"> 校内の授業公開期間を中心に、協同学習やICT機器の活用等により、生徒につけたい6つの力の視点に立った、生徒自らが主体的に学ぶ授業づくりを實踐する。 数理データサイエンスか生成AIを扱った各教員が授業改善に取り組めるようフォローする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校改善アンケート(生徒対象)の「授業や補習に積極的に取り組んでいますか」の質問項目において肯定的評価が88%以上(前年度82%、前々年度85%)、「授業はわかりやすいですか」の質問において肯定的評価が85%以上(前年度80%、前々年度82%)になる。 教員の一般的な端末の活用指導力(授業でどの程度端末を活用させているか)を県内の上位1/3以内にす。 (昨年度14/53) 全教員が数理データサイエンスか生成AIを扱った授業改善の取り組みをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 6/9～6/27の授業公開週間を設け、数理データサイエンスを扱う内容か、生成AIを扱う内容で取り組み、多くの教員が實踐した。 教員の一般的な端末の活用指導力(授業でどの程度端末を活用させているか)について、24/53と1/3にとどかなかったが、ほとんどしないの数は減少できた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 10/27～11/14の授業公開週間に数理データサイエンスを扱う内容か、生成AIを扱う内容で取り組んだ。 学校改善アンケート(生徒対象)の「授業や補習に積極的に取り組んでいますか」の肯定的評価は89%(82%)と上昇したが、「授業はわかりやすいですか」の肯定的評価は79%(80%)と昨年度より多少下がった。 教員対象の学校改善アンケートにて、「PCやプロジェクターなどのICT機器を必要に応じて活用し、授業改善に努めていますか」の問いの肯定的回答が91%(83%)であった。 	B
	進路指導課	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自走できるように、授業やひたぶるタイム等、主体的に取り組む活動を通して、確かな学力と考える力・表現する力を育成できるように計画・立案・運用し、進路保障の一助とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段の授業時間の中で、生徒の主体的活動が展開される場面を意識的に設ける。 キャリアデザイン室を中心に、生成AIなども活用しながら学びを自走させるように計画・立案・運用し、進路保障の一助とする。 各学期で多様な授業実践を公開し、意見交換を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 各年次、新教育課程に応じた生徒の主体的活動が試みられた。 キャリアデザイン室によるD☆ラボ、研修会や近隣中学校への探究メンター企画、実施が進められた。中学校への出前メンターが好評である。 全国の先生方の学校訪問に対応し、総合的な探究の時間の公開の際には、DX探究へと進化した様子を見ていただいた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 中間期と同様に、新教育課程に応じた生徒の主体的活動が試みられた。 Classiの動画学習パックなどを活用して、校外模試対策などを軸に家庭学習の充実を試みた。 キャリア・デザイン室を中心に、学びを自走させクリエイティブな生徒を育てる授業改革を推進することができた。 キャリア・デザイン室により、クリスマスのセト☆フェスの第2部(午後)に外部の社会人・生徒を交えた教員研修を実施した。 2学期にも授業実践の公開をすすめた。 	B
	1年次	<ul style="list-style-type: none"> 授業を大切に、予習・復習をしっかりとさせる。 提出物を必ず提出させる。未提出の者には積極的に声かけを行う。 学習実態調査を実施し、時間や期限の管理を自分でできるように目標や計画を立てる機会を多く設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期毎の振り返りシートによる調査「授業を第一に、予習・復習を徹底的にすることができましたか。」の質問項目において、肯定的回答が70%以上になることを目指す。 学校改善アンケート「宿題や提出物は期限を守って提出できていますか。」の質問項目において肯定的評価が70%以上を目指す。 学習実態調査の家庭学習時間が年間を通して増加することを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期振り返りシートによる調査「授業を第一に、予習・復習を徹底的にすることができましたか。」の肯定的回答が57.4%であり例年より少し低く、「課題・提出物を必ず出す」の肯定的回答が73.6%であった。 4月の学習実態調査では、平日・休日合わせた1週間平均の学習時間は119.6分であった。 今後は、担任面談や教科からの声掛けを通して、学習時間の確保するとともに、課題の提出も促していきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 2学期の振り返りシート「授業を第一に、予習・復習をしっかりとすることができましたか。」における肯定的回答は50.0%となり、1学期より約7%低下し、学習習慣の定着には課題が残った。 一方、9月の学習実態調査では、平日・休日を合わせた1週間平均の学習時間が137.7分となり、4月より18.1分増加した。 冬季休業前には年次教員全員で面談を実施し、進路意識の醸成と学習目標・計画の整理を行った。今後も年次・教科が連携し、粘り強く学習時間の確保と学習意識の向上に取り組んでいきたい。 	B
	2年次	<ul style="list-style-type: none"> 授業を第一にし、予習・授業・復習の学習サイクルを確立する。 生徒が進路目標を明確にし、それに向かって挑戦できるように、あらゆる場面において年次団の教員が中心になり支援する。 課題・提出物を必ず提出させるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期毎の振り返りシートによる調査「授業を第一に、予習・復習をしっかりとすることができましたか」の質問項目において、肯定的評価が70%以上になることを目指す。(1年3学期56.5%) 学習実態調査の家庭学習時間が平日・休日あわせて1日平均3時間確保できることを目指す。 振り返りシート「課題・提出物を必ず出すこと」、学校改善アンケート「宿題や提出物は期限を守って提出できていますか。」の2つの質問項目において、肯定的な評価がともに80%以上になることを目指す。(振り返りシート3学期80.3%、学校改善アンケート67%) 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の振り返りシートによる調査「授業第一」、「課題・提出物」の肯定的な評価はそれぞれ69.5%、84.4%であった。 4月学習実態調査の結果は92分(平日86.6分、休日105.8分)。休み時間中に次の時間にある小テストの勉強をするなど、前向きに学習に取り組む生徒が多い。各自、家庭学習をまずは10分増やせるような宿題の設定や呼びかけを継続して行うことが年次の課題である。 夏休みに「ひたぶる学習会」を開催した。基本的には自習の場として、数名ではあったが、継続的に参加してくれた。また、上位者向けに集会(自作の模擬試験とその解説)を行い、年次を引っ張っていく集団作りが行えた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 2学期の振り返りシートによる調査「授業第一」、「課題・提出物」の肯定的な回答はそれぞれ66.2%、82.8%であり、1学期より微減した。学校改善アンケート「宿題や提出物は…」の肯定的な回答は78.1%であった。 9月の学習実態調査の結果は115分(平日106.6分、休日134.7分)であった。前回に比べると増加傾向にはあるが、今後も担任や教科担当等の声掛けを通して、学習時間の更なる確保を目指す。 2学期の振り返りシートによる調査「進路を見据えた目標を設定できたか」の肯定的な評価は76.3%であった。概ね生徒は進路目標を設定できたようであるので、それを達成できるように行動に移す手助けを学年団で継続して支援したい。 	B
	3年次	<ul style="list-style-type: none"> 授業を第一にし、家庭学習(予習・復習・受験勉強)を促すよう促す。 進路目標の實現のために『やるべきこと』を考えて行動するよう促す。 Classiの学習記録を利用して学習実態調査を実施し、自己管理・自走ができるように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期毎の振り返りシートによる調査「授業を第一に、家庭学習(予習・復習・受験勉強)を促すことができましたか。」「進路實現のために『やるべきこと』を考えて行動できましたか」の質問項目において、肯定的回答が、それぞれ60%、80%以上になることを目指す。(2年3学期49.6%、84.3%) 学習実態調査の家庭学習時間が、1日平均3時間確保できることを目指す。(1年3学期110分) 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の振り返りシートによる調査「授業を第一に、家庭学習(予習・復習・受験勉強)を促すことができましたか。」「進路實現のために『やるべきこと』を考えて行動できましたか」の肯定的回答が、それぞれ76.6%、88.4%であった。 4月の学習実態調査では、平日・休日合わせた1週間平均の学習時間は114.9分であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 2学期の振り返りシートによる調査「授業を第一に、家庭学習(予習・復習・受験勉強)を促すことができましたか。」「進路實現のために『やるべきこと』を考えて行動できましたか」の肯定的回答が、それぞれ81.7%、96.0%であった。 9月の学習実態調査では、平日・休日合わせた1週間平均の学習時間は179.7分であった。 	B
教育DX	<ul style="list-style-type: none"> 新任・転任教員向けに生成AI活用ガイドンスを實施し、対象者に最新のデジタル技術と授業事例の共有を図る。 希望者を対象としたICT活用ガイドンスを實施し、各教員が授業においてICT機器やデジタル教材を効果的に活用できるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新任・転任教員向け生成AI活用ガイドンスの受講率を90%以上とする。 ICT活用ガイドンス参加希望者の授業でのICT機器利用が70%以上となることを目標とする。 各教科の授業で、「生成AIを授業で活用する」または「数理データサイエンスの能力向上を目指す授業」について取り組み、授業計画および実施状況の記録や共有体制を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しく赴任された先生の受講率は約100%であり、受講後のアンケート結果からも授業での活用意欲が高まっている。 座学中心の教科だけでなく、体育・書道・音楽などの実技教科においても生成AIを活用した授業実践が進み、瀬戸AIカフェを通じて校外で共有することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 新任・転任教員向け生成AI活用ガイドンスは次年度も継続して實施し、学校全体としての生成AIを含めたICT利活用推進をはかる。 企業と連携して最新のツールに関する研修をオンデマンド配信できるように準備し、校内での公開授業などで実践事例を紹介した。 	A	

<p>② 生徒が主体的に行動し、自らの成長を実感できる取組を進め、将来は自立した社会の構成員として活躍する、より良くなるよう力を育成を行う。</p> <p>(自主)</p>	<p>教務課</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒主体のオープンスクールを企画・運営することで、生徒の主体性を養うとともに、生徒による本校の魅力発信に繋げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒主体のオープンスクールを継続し、生徒による本校の魅力発信に挑戦する。 オープンスクールの中3生参加者数を350人以上にする。学校説明会50名以上にする。(昨年、中3生OS参加者346名、中2生OS参加者191名、学校説明会参加者中3生25名、中2生15名) 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度同様、中学2年生も対象にして、保護者も交えて、オープンスクールを無事に実施できた。生徒会による学校紹介、教員からの学校紹介の動画、総探発表、高校生との交流会、DX体験、部活動見学等、本校生徒の活動を前面に打ち出した内容で、生徒も主体的に活動できた。 (オープンスクールのアンケート結果から) オンライン全体会、ひたぶる発表会、高校生との交流会いずれも肯定的回答が95%を超える中、高校生が関わるものは特にとても良かったといった回答が多かった。 オープンスクールでは、本校生徒もべ80名が参加した。中3生徒参加者246名、中2生徒参加者130名、保護者138名であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒主体のオープンスクールや学校説明会を滞りなく行うことができた。これらの行事やブログ等の発信において、普段の学校生活の状況や部活動、学校行事など瀬戸高校の魅力を発信し続けていきたい。 オープンスクール・学校説明会では生徒が主体となったものにできたが、学校説明会の参加者が中3生23名、中2生6名、保護者30名と昨年度より少なくなり、より多くの中学生・保護者が参加する手立てが望まれる。 	<p>B</p>
	<p>生徒課</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会主催の学校行事で、生徒主体の活動を実践するとともに、生徒自身が計画・運営し、全校生徒で行事を盛り上げることができるよう支援する。 生徒主体で取り組む瀬戸高祭にするとともに、会場などの変更によって生じる様々な問題を解決し、瀬戸高祭全体を成功させる。 校則の改訂などについて、検討を重ね生徒主体で運営する生徒会をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> 瀬戸高祭アンケートの満足度において、全体的に「よい」の数値で95%前後(昨年度97.5%)の満足度を維持する。(Chromebookを活用) 「生徒会活動」の項目 = 生徒・教員75%以上、保護者70%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部・委員会が主体的に議論し、問題解決に取り組めた。教職員の支援もあり、自分たちで考える態度、より良くなろうとする力には成長が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 瀬戸高祭アンケートでは、文化の部が97%、体育の部が85%合わせて91%の満足度となった。体育館の「会場の狭さ」「音響の聞き取りにくさ」などハード面の意見もあったが、会場変更について概ね好評であった。 生徒会活動は、生徒88%、教員91%、保護者88%の満足度で、年間を通して満足度が高い結果となった。 	<p>A</p>
	<p>進路指導課</p>	<ul style="list-style-type: none"> 個々の進路実現に向けて、様々な活動に自走できるよう、情報や機会の提供を面談・研修会などで進めていく。 新しい入試制度に対して、最新の情報収集と情報提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 面接週間時の内容ポイントを学年団で共有し、共通理解を図りながら充実した面談が出来るようにする。 3年次生はひたぶるタイム等の成果を踏まえ、個人の進路選択について視野の拡大・深化をはかり、個の学びに4月当初の早い時期から繋げていく。 進路検討会等の機会を利用して、教員研修の時間を学期に1回以上持つ。 学校改善アンケート(生徒)における進路情報提供に関する満足度を85%以上にする。(一昨年度82%、昨年度85%) 	<ul style="list-style-type: none"> 面談時の内容などについて各年次毎、各学期で共有が図られた。 1学期に外部講師による座談会などを行い、個に応じた進路学習をすすめた。 第1回進路検討会で令和6年度卒業生の進路状況と昨今の入試事情の研修講座を実施した。 瀬戸高校6つの力を育成するDX探究の学びが生徒自身のキャリアにつながることを入試を通して実感できる仕組み作りを検討したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 面談時の内容などについて、学年で共有が図られた。その結果、生徒の学校改善アンケートにおける面談についての満足度が89%と前年度から2%増であった。 3年次の個人の進路選択について、面談等により4月当初の早い時期から繋げていく事が出来た。 学校改善アンケート(生徒)における進路情報提供に関する満足度は昨年度より2%増の87%であった。各年次の通信や進路LHRなどでさらに充実を図っていく。 第2回進路検討会で今年度の入試の動向と新課程入試の情報共有を研修として実施した。 国立大学の年内入試を積極的に勧め昨年度20名には及ばなかったが18名であった(岡大2名を含む)。 新教育課程の情報に関する共通テストに関する情報の収集と共有を進めた。 	<p>B</p>
	<p>厚生課</p>	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員会や環境・防災委員会の充実した活動を実施する。 生徒自らが、健康や防災に関心を持ち、様々な体験を通して学んでいく姿勢を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種委員会が、健康や防災について校内で啓発活動を行う。 歯科治療率を県平均値の35%目標として向上させていく。 思春期後半の生徒の健康意識を高めるLHRを計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員会、環境・防災委員会は各方面で活動ができています。 歯科治療率向上をめざして、引き続き生徒に促していく。 健康LHRはネット依存についての講演会を実施予定。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員会、環境・防災委員会は年間を通じて校内での活動を滞りなく行っていた。保健委員会は学校安全保健委員会での発表も行っている。 校内歯科治療率は40.7%(県平均40%)であった。次年度は更に生徒自ら、健康管理を行う力を向上させたい。 健康LHRは『ネットとゲームとスマホで10代を溶かさないうために』をテーマに講演会を実施した。よりよくなるようとする力を育む一助とできた。 	<p>A</p>
	<p>1年次</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大いに学び、大いに楽しめるよう部活動、学校行事に全力で取り組ませる。 新しい人、新しいもの、新しい自分との出会いを大切にさせる。 探究活動などを通して、地域や社会、世界に関心を持たせ進路意識を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期毎の振り返りシートによる調査「部活動や学校行事に主体的に参加することができましたか。」の質問項目において、肯定的回答が80%以上になることを目指す。 学校改善アンケート「部活動、各種委員会活動、瀬戸高祭、球技大会など生徒会活動に積極的に取り組んでいますか。」の質問項目において肯定的評価が80%以上になることを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の振り返りシートによる調査「部活動や学校行事に主体的に参加することができましたか。」の肯定的な回答は92.3%と非常に高いものであった。部活動や瀬戸高祭を通じて、活躍する1年次生の姿もよく見られ、他者との関わり方を考え、積極的に活動することができていた。 今後もLHRや年次通信を通じて、進路探究につながる意識付けを行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期の振り返りシート「部活動や学校行事に主体的に参加することができましたか。」において、肯定的回答は96.7%となり、中間時よりさらに向上し、学年の大多数を占めた。また、学校改善アンケート「部活動、各種委員会活動、瀬戸高祭、球技大会など生徒会活動に積極的に取り組んでいますか。」において、肯定的回答が90%、「総合的な探究の時間に積極的に取り組んでいますか。」でも、89%となり、行事や探究活動に対する主体的な姿勢が定着しつつある。これらの結果から、多くの生徒が学校行事や探究活動を通して「大いに学び、大いに楽しむ」経験を重ね、自身の成長を実感できたと考えられる。今後もこの姿勢を継続し、2年次以降につなげていきたい。 	<p>A</p>
	<p>2年次</p>	<ul style="list-style-type: none"> 部活動や学校行事に主体的に取り組めるように支援する。特に瀬戸高祭については、学校の中心年次として、生徒・教員が一体となって取り組む。 探究活動や教育DXなどの「新しい学び」を通して、知的好奇心を刺激し、進路 	<ul style="list-style-type: none"> 学期毎の振り返りシートによる調査「部活動や学校行事に主体的に参加することができましたか」の質問項目において、肯定的評価が90%以上を維持することを旨とする。(1年3学期95.3%) 学校改善アンケート「部活動、各種委員会活動、瀬戸高祭、球技大会など生徒会活動に積極的に取り組んでいますか」の質問項目において、肯定的評価 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期振り返りシートによる調査「部活動・学校行事」の肯定的な回答は95.0%、「瀬戸高校の授業や学校行事を通して、あなたは楽しく学べていますか」の肯定的な回答は92.2%であった。 会場が学校外となった最初の瀬戸高祭ではあったが、各ブロックやクラス企画などにおいて、リーダーを中 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期の振り返りシートによる調査「部活動・学校行事」、「瀬戸高校の授業や学校行事を通して、あなたは楽しく学べていますか」、「学校改善アンケート「部活動など生徒会活動に積極的に取り組んでいますか」の肯定的な回答はそれぞれ、97.8%、92.8%、88.7%であった。 	<p>A</p>

	意識を育成する。また、あらゆる事象や変化に対しても、楽しく学び成長できる集団になることを目指す。	が90%以上になることを目指す。(1年次87%)	心に協力や工夫する姿が随所に見られた。	・探究活動の発表行事「セト☆フェス」では、多くの班が生成AIの活用など目新しいアイデアが含まれた発表がなされた。 ・2学期には修学旅行が実施された。体調不良者は数名出たが、大きなトラブルも起こらず、無事に終了することができた。
3年次	・高校生活の集大成として、部活動や学校行事に積極的に取り組ませる。 ・進路探究の時間や担任面談等を利用して進路情報を提供し、進路決定できるように促す。	・学期毎の振り返りシートによる調査「部活動や学校行事に主体的に参加することができましたか。」の質問項目において、肯定的回答が90%以上になることを目指す。(2年3学期 91.3%) ・学校改善アンケート「部活動、各種委員会活動、瀬戸高祭、球技大会など生徒会活動に積極的に取り組んでいますか。」の質問項目において肯定的評価が90%以上になることを目指す。(2年次 91%)	・1学期の振り返りシートによる調査「部活動や学校行事に積極的に取り組むことができましたか。」の肯定的回答が98%であった。 ・瀬戸高祭においても、3年次生にふさわしい活躍をした。	・2学期の振り返りシートによる調査「部活動や学校行事に積極的に取り組むことができましたか。」の肯定的回答が95.9%であった。 ・学校改善アンケート「部活動、各種委員会活動、瀬戸高祭、球技大会など生徒会活動に積極的に取り組んでいますか。」の肯定的評価が86%であった。
教育DX	・2年次全員を対象としたデータサイエンスセミナーを実施し、数理データサイエンスの視点を取り入れた学びの機会を提供する。 ・校内 ICT 環境整備について、生徒・教員アンケートの結果および他校の実践例をもとに、導入機器の選定や改善策の検討を実施する。	・2年次全員対象のデータサイエンスセミナーでは、実施後アンケートで70%以上の肯定的評価を獲得する。 ・校内 ICT 環境整備に関しては、アンケートおよび他校の実践例を踏まえた上で、導入機器の選定と具体的な改善策を策定・実施する。	・データサイエンスセミナーでは、実施後のアンケートで約75%の肯定的評価を得た。また、セミナーで学んだことを活かしてコンテストに出場する生徒も現れた。 ・校内 ICT 環境整備に関しては、他校の事例収集を進め、改善策の素案を教育DX推進室内で検討中。ただし、具体的な優先順位付けや実施計画には未着手である。	・データサイエンスについては、研修などを実施した。次年度以降総合的な探究の時間を含めた教科で実践できるようにロードマップなど作成していきたい。 ・本年度実施したデジタルデザインの授業など生徒の多様なニーズに答えることのできる汎用性の高い物品導入を検討した。また、次年度は購入物品を用いた実践を共有することが活用推進に重要である。

③ 主体的に他者と関わり、健全で良好な人間関係を築き、その関係を基にした実践的なコミュニケーション能力の育成を行う。 (健康)	教務課	・ボランティアや外部交流につながる情報提供を随時行い、生徒が学校外とつながる機会を設ける。また多様な人々と積極的に交わる意識の高揚を促す。 ・授業や総合的な探究の時間、ボランティア活動等で生徒同士が協働しながら主体的に学び合うことで、充実感や満足感が得られるようにする。	・授業や総合的な探究の時間、ボランティア活動等で自ら学校外の人々と係わる機会を1人2回/年以上持つ。 ・学校改善アンケート(生徒対象)の「瀬戸高校で学ぶことに充実感や満足感を持っていますか」の質問項目において肯定的評価が85%以上(前年度81%)	・夏季休業中の社会貢献活動(1年次)には、のべ9カ所に112名の生徒が参加した。 ・韓国慶尚南道青少年交流事業の会場となったことを利用して、短い時間ではあったが国際交流の実践ができた。	・夏季休業中の社会貢献活動や中学校との生徒会・部活動等を通じた交流、総合的な探究の時間におけるフィールドワーク等で、学校外の人々と係わる機会が2回/年以上持っている。 ・学校改善アンケート(生徒対象)の「瀬戸高校で学ぶことに充実感や満足感を持っていますか」の肯定的評価は81%(81%)であった。
	生徒課	・挨拶運動や日常生活の中で、気持ちの良い挨拶ができるようにする。 ・制服の正しい着こなし、基本的な生活習慣の確立、交通ルールの遵守ができるよう支援する。	学校改善アンケート結果で、「あいさつ」の項目 = 生徒・教員75%以上、保護者50%以上を目指す。 「人権尊重」の項目 = 生徒・教員75%以上、保護者70%以上を目指す。 「生徒指導」の項目 = 生徒・教員75%以上、保護者70%以上を目指す。	・教員の定期的な生徒への呼びかけ、委員会でのあいさつ・交通安全呼びかけ運動を行うなど生徒の意識向上に努めた。 ・生徒による学期の振り返りでは3観点とも90%達成できたという結果になったが、生徒課としては向上の余地がまだまだあると考える。	・挨拶：生徒75%、教員85%保護者53% ・人権尊重：生徒86%、教員85%、保護者68% ・生徒指導：生徒による振り返りでは頭髪服装に関する項目は90%達成しているが、スマホに関する項目では67%と低く、実際の指導としてもスマホはじめ複数のマナー違反を指導した。
	進路指導課	・ひたぶるタイムがより協同的な取組となるように工夫し、クラス・学年、さらには学校外の人々と関わる機会をできるだけ多く設ける。 ・ひたぶるタイムの活動を生徒自らの「キャリアデザイン」の形成に繋げ、社会の一構成員としての自覚を持って行動できる力を育成する。	・1・2年次生は、年次を越えてまたは年次全体・クラス全体での発表の機会を年2回は設ける。 ・1年次生は外部講師を招いての講演会を学期に2回開催する。 ・2年次生は、S☆ラボの活動を通じて見出した研究課題をフィールドワーク等で深め、自身のキャリアデザインの形成に効果的に結びつけていく。 ・学校改善アンケート(生徒)における総探への積極度を90%以上にする。(一昨年度90%、昨年度86%)	・7月に真夏のセト☆フェスで発表の機会を設けた。また教育DXの学びを取り入れた成果を発表した。 ・1学期に伝える力受けとる力つなげる力講演会、地域の方を囲む会を設け、外部講師による学びの深化をはかった。 ・1・2年次の「総合的な探究の時間」のカリキュラムに教育DXを計画的に組み入れ成果を得た。	・12月にクリスマスのセト☆フェスを実施し、生徒の発表の機会を設けた。 ・全学年において探究の学びを積極的に「学びの年表」や「ひたぶるノート」に記録することができた。 ・1年次には岡山大学とSDGsの講演を設けた。 ・3年次は3年間の「ひたぶるノート」の蓄積を基に、志願理由書などの作成を通して、自らの進路について研鑽を深めた。 ・学校改善アンケート(生徒)における総探への積極度は昨年度より微減の85%であった。来年度は教育DXとの関わりをさらに深化させていきたい。
	厚生課	・避難訓練を通じて、生徒の主体的な判断や安全意識の育成を図る。 ・悩みのある生徒・保護者への教育相談の充実を進める。	・避難訓練、防災授業を実施し、生徒自らが判断し危険を回避する能力を育てる。職員にも予測不能な災害に対応できる能力を積んでもらう。 ・外部の専門家(SC、SSW)などの活用と連携を持ち、生徒や保護者の内面的なケアに努める。 ・「生徒向けポータルサイト」や「保健便り」を通して情報等を発信し、健康維持の啓発に努める。	・避難訓練は複数回の緊急地震速報への対応、地震体験車体験など、有意義な訓練を実施できた。 ・外部の専門家と連携し、生徒や保護者のケアに努めている。 ・熱中症予防など、適宜生徒への情報発信を行っている。	・避難訓練は、地震体験車、通学路のハザードマップ確認等、自分事としての意識を深めることができた。 ・保健室利用も多くなった。担任や教育相談、SSW、特別支援サポーターと連携し、対応を行った。次年度は特別支援の観点を更に強化し、生徒のコミュニケーション能力の育成を含めた支援を継続したい。 ・保健便りは瀬戸高生徒用ポータルを活用し、ミニ情報を頻回数提供する形も取り入れた(DX化)。
	1年次	・自分からすすんで、気持ちのよい挨拶をする。感謝の気持ちを言葉にする。 ・先生や友人との対話を大切にす。	・学期毎の振り返りシートによる調査において、肯定的評価が80%以上になることを目指す。 ・学校改善アンケート「登下校時や校内で、自分からすすんで積極的に挨拶をしていますか。」の質問項目において肯定的評価が80%以上を目指す。	・1学期の振り返りシート「誰に対しても自分から気持ちの良い挨拶をすることができましたか。」肯定的回答86.5%。「感謝の気持ちを言葉にすることができましたか。」肯定的回答98.1%であった。 ・どちらも肯定的回答をした生徒の割合が高いため、この習慣はしっかりと継続していきたい。	・2学期の振り返りシートにおいて、「自分から気持ちのこもった挨拶をすることができましたか。」の肯定的回答は88.7%、「感謝の気持ちを言葉にすることができましたか。」は99.3%と、いずれも高い水準を維持・向上させることができた。 一方、学校改善アンケート「登下校時や校内で、自分からすすんで積極的に挨拶をしていますか。」の肯定的評価は76%にとどまり、場面に応じた主体的な実践には課題が残った。

				今後は、挨拶や対話を単なる習慣にとどめず、相手を意識した関わりへと高める指導を行い、健全で良好な人間関係づくりにつなげていきたい。		
2年次	<ul style="list-style-type: none"> 自分から気持ちのよい挨拶をし、友人同士や先生との対話を大切にさせることで、生徒同士、そして先生と生徒のより充実した人間関係を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期毎の振り返りシートによる調査「気持ちのよい挨拶をすることができたか」の質問項目において、肯定的評価が90%以上を維持することを目指す。(1年3学期94.6%) 学校改善アンケート「登下校時や校内で、自分からすすんで積極的にあいさつをしていますか。」「学校で先生や他の生徒を1人の人間として尊重していますか。」の質問項目において、肯定的な回答がともに85%以上になることを目指す。(1年次77%、93%) 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の振り返りシートによる調査「気持ちのよい挨拶」の肯定的な回答は97.1%と高い。ただし、1年3学期の調査と比べて、「だいたいできた」の回答が増え、「できた」の回答が減っている。 2学期は瀬戸高祭や修学旅行など、大きな学校行事が続く。お互いを尊重し、誰にも居場所があるような温かい集団になっていけるように支援を続けたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期の振り返りシートによる調査「気持ちのよい挨拶」の肯定的な回答は95.7%であった。 学校改善アンケート「自分からすすんで積極的にあいさつ」、「学校で先生や他の生徒を1人の人間として尊重」の肯定的な回答はそれぞれ、74.6%、85.9%であった。 学校改善アンケートの「1人の人間として尊重」の項目が昨年よりも低くなっているが、教員が生徒と積極的に関わっているからと考える。今後も丁寧、適切に関わっていきたい。 	B	B
3年次	<ul style="list-style-type: none"> 大きな声で、顔を見て挨拶するよう指導する。 お互いを尊重し、感謝の気持ちを持つよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期毎の振り返りシートによる調査「大きな声で、顔を見て挨拶できましたか。」「お互いを尊重し、感謝の気持ちを持つことができましたか」の質問項目において、肯定的回答が、それぞれ85%、95%以上になることを目指す。(2年3学期 82.6%、97.4%) 学校改善アンケート「登下校時や校内で、自分からすすんで積極的にあいさつをしていますか。」「学校で先生や他の生徒を1人の人間として尊重していますか。」の質問項目において、肯定的回答が、それぞれ80%、90%以上になることを目指す。(昨年全体 77%、95%) 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の振り返りシートによる調査「大きな声で、顔を見て挨拶できましたか。」「お互いを尊重し、感謝の気持ちを持つことができましたか」の肯定的回答が、それぞれ85.8%、96.7%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期の振り返りシートによる調査「大きな声で、顔を見て挨拶できましたか。」「お互いを尊重し、感謝の気持ちを持つことができましたか」の肯定的回答が、それぞれ89.1%、99.3%であった。 学校改善アンケート「登下校時や校内で、自分からすすんで積極的にあいさつをしていますか。」「学校で先生や他の生徒を1人の人間として尊重していますか。」の肯定的回答が、それぞれ75%、95%であった。 	B	B
いじめ対策委員会	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育室、教育相談室などと連携をはかり、いじめの早期発見に努める。また人権教育講演会などを通して、人権・いじめに対する問題意識を高める。 スタンドバイの活用と、各学期アンケートを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> スタンドバイや各学期のアンケート結果をもとに、早期発見・解決に努め、いじめのない学校づくりを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝礼や学年団会議、課長主任会議で生徒の情報を共有できた。また、いじめが疑われる事案に関して迅速に組織的対応を行うことができた。学習や人間関係に悩みのある生徒はいるが、スタンドバイや学期のアンケート結果も特に大きな反応はなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> スタンドバイや各学期のアンケート結果など、特に問題なかったが、部活動でのトラブルやSNSを介したトラブルなどで、情報共有を速やかに行い、聞き取りからはじまる組織的な対応を行うことができた。 	A	A

④ 郷土・地域の将来を考え、周囲と連携しながら行動する変革の担い手としてイノベーションを起こし、エージェンシーを発揮する力の育成を図る。 (協調)	教務課	<ul style="list-style-type: none"> オープンスクール、学校説明会、ホームページ等の広報活動を充実させ、瀬戸高校の魅力発信を強化する。 社会貢献活動・地域貢献活動に主体的に参加し、地域社会を担う一員としての自覚を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ更新数・アクセス数を前年度以上にす。(昨年度更新数22回、アクセス数1日平均648回、Instagram投稿42回) 入学者選抜において定員充足となる。 ブログの更新を教務課だけではなくすべての課で行えるようにし、学校全体で広報活動を担える体制をつくる。 学校改善アンケート(生徒対象)の「社会貢献活動(ボランティア活動)・地域貢献活動に積極的に取り組んでいますか」の質問項目において肯定的評価が60%以上(前年度58%)になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ更新数 15回、アクセス数1日平均 717回(4月~7月末) 校長を中心に課長主任の教員で中学校訪問 31校を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 11月から新しいホームページの運用が始まった。 ホームページ(ブログ)更新数6回(8月~10月)、アクセス数1日平均 1325回(8月~12月)、Instagram投稿43回(42回)。 学校改善アンケートの「社会貢献活動(ボランティア活動)に積極的に取り組んでいますか」の肯定的評価は54%(58%)で昨年度より少し減少した。 ブログの更新の課を越えた取り組みについて、教務課で音頭を取りながら更に広げていきたい。 	B	B
	厚生課	<ul style="list-style-type: none"> 校外ボランティア活動の推進を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 瀬戸町公民館の防災キャンプや、県教委が主催する防災関連の行事に生徒が参加することで、防災意識を高める。また、教員も関係する研修会に積極的に参加していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は瀬戸町公民館の防災キャンプには不参加。生徒のボランティア活動への積極的参加を促したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 1月ウォーキング大会時に社会貢献活動として、地域の清掃活動を行った。ボランティア等を通じ、地域の将来を担う意識を醸成したい。 	B	B
	全年次	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決型学習を推進することで、自分の頭で考え、自分の言葉で語り、自分の意思で行動できる生徒の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの総合的な探究の時間を中心に行っている各自やグループで問いを立て、解決のために行動し、知り得たことや思考を外化するというプロセスを、一層推進させる。さらに生成AIを活用したり、数理データサイエンスの視点を活用したりしながら、探究の時間だけでなく、教科学習や特別活動等の場面でも主体的で深い学びを表現し、生徒自身が成長を自覚できるように支援する。 総合的な探究の時間【ひたぶるタイム】に積極的に取り組んでいますか。肯定的評価85%以上(前年度85%)になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 総探の取組の中から、外部コンテスト出場 NIKKEI STEAM 審査員特別賞受賞 DXハイスクールAIリーダーズの取組加速 第6回全国高等学校AIアスリート選手権大会シンキョウリテイハトルクエスト2025参加 総探の取組は、各チーム生成AIを活用した深化や、データを活用しようとする動きも出ており、さらに、深まっていくことが期待される。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部コンテスト、外部発表に複数挑戦。生徒が自分の言葉で語り自分の意思で行動する場面が多く見られた。 高校生夢育PBLフォーラム2チーム参加 岡山大学Youthmeeting 2チーム参加 マイプロジェクトアワード4チーム参加 スポーツ探究ピッチコンテスト1チーム参加 総合的な探究の時間【ひたぶるタイム】に積極的に取り組んでいますか。肯定的評価85% 	B	A
	教職員	<ul style="list-style-type: none"> 教職員一人一人がワークライフバランスをとりながら、安心して業務を担い、学び合い、協働しながら教育活動の改善や向上に努め、生徒の成長を支援する。 教員間の対話や同僚性を重視し、well-beingな職場づくりを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間外在校等時間はR6年度には前年比10%減となっている。引き続き減少傾向を保ちながら業務の平準化、効率化を図る。校務DX化を加速させることにより、業務時間の削減を図る。 各分掌における業務について、目的、意義や成果を確認しながら、業務改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 6月から時間外在校等時間は減少し始めた。年度初めの業務の精選と平準化が課題である。 瀬戸高祭等新しい取り組みも多く、目的や意義を確認する機会は増えたが、業務改善へのつながりは今後に期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 校務のDX化は随所で進んでいるが時間外在校等時間は減少を継続はできていない。 業務の平準化のため年度内での分掌調整などを実施した。 ストレスチェック結果は、良好。「キャリア形成」において顕著なストレス緩和がみられる。職員のキャリアについて、人事方針や目標が明確にされ、教育、訓練が提供されていると評価された。 well-beingな職場づくりは進んでいる。 	B	A
	事務	<ul style="list-style-type: none"> 安全・安心な環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 修繕工事等を行うに当たっては、生徒・教職員の安全確保に努める。 校内美化意識向上のための「学校施設づくり」を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事故はなかったが、特に下半期の大規模な工事の際に、事故がないよう実施したい。 美化につながる修繕工事についても、引き続き実施したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 事故がなく工事を終了することができた。 年度末までに更に美化につながる修繕工事ができる見込みである。 	B	B